

市長公約の取組状況（令和５年３月末現在）

10項目			
	47プラン	取組状況	関係部局
1 新型コロナウイルス感染症対策			
1	ワクチン接種を確実にかつ速やかにできるよう万全を期します。	○令和３年度から引き続き、希望する12歳以上の方への追加接種（３回目）を実施し、令和４年５月には概ね完了しました。 ○令和４年９月からは、オミクロン株対応ワクチンを使用した追加接種（令和４年秋開始接種）を希望する12歳以上の方へ実施し、令和４年12月で概ね接種を完了しました。 ○令和４年10月からは、小児（５～11歳）への追加接種（３回目）、乳幼児（生後６か月～４歳）への接種（初回）を開始しました。 ○初回未接種者については、引き続き接種機会を提供するため、定期的に接種を実施しています。	保健所
2	無利子融資の拡充、プレミアム商品券の発行により、市内の卸・商店等を支援します。	○令和５年度からの利子補給の実施に向け、金融機関から融資情報を取得するために必要となる委任状を事業者から取得するなどの準備を行いました。 ○秋田市商品券事業実行委員会を設置し、幅広い業種の店舗で使用可能な１冊１万円の商品券を８千円で購入できる本市独自のプレミアム付商品券約24億円分を発行しました。	産業振興部
3	子どもへの支援金を支給します。	○新型コロナウイルス感染症の影響を受けている子育て世帯を支援するため、令和３年度に本市独自事業として実施した子ども応援給付金について、申請に基づき、新生児264人分に支給しました。	子ども未来部
4	採用支援金の交付、資格取得への助成など、感染症の影響により解雇・離職された方を支援します。	○「新型コロナウイルス感染症対策離職者採用支援事業補助金」や「新型コロナウイルス感染症対策離職者資格取得助成事業補助金」の積極的なＰＲを通じた利用促進に努め、再就職の促進を図りました。	産業振興部
2 未来が見えるまちづくりの促進			
5	中心市街地の魅力を高める民間のプロジェクトをさらに支援します。	○年間を通したにぎわいの創出のため、関係団体等が実施するイベント等を支援しました。 ○民間事業者が実施する優良建築物等整備事業に対し、「中心市街地優良建築物等整備事業費補助金」により支援しました。	観光文化スポーツ部 都市整備部
6	「コレアキ」「ホコ天」開催により、さらなる賑わいを創ります。	○「東北絆まつり2022秋田」との同時開催となった「これが秋田だ！食と芸能大祭典2022」の開催費用の一部を支援しました。 ○秋田商工会議所等で構成する「広小路バザール実行委員会」に対し、広小路バザールの開催費用の一部を補助しました。	観光文化スポーツ部 産業振興部

10項目			
	47プラン	取組状況	関係部局
	7 あきた芸術劇場と市文化創造館で質の高い文化を発信します。	○あきた芸術劇場については、指定管理者であるあきた芸術劇場AAS共同事業体が令和4年6月オープンまでの開館準備、ならびにオープン後の管理運営を行ったほか、本市と県において、あきた芸術劇場で使用する備品を整備しました。また、開館記念事業として、6月に記念式典、9月にグランドオープン記念特別公演であるクラシックコンサート、令和5年1月に県民・市民参加型のミュージカル公演を開催しました。 ○文化創造館については、指定管理者であるNPO法人アーツセンターあきたが管理運営を行い、文化創造のまちの実現に向けて、市民の多様な活動を支援しました。	観光文化スポーツ部 企画財政部
	8 まちなか観光案内所を中心としたまち歩き観光を充実します。	○本市を訪れた観光客等に対する観光案内の充実を図るとともに、本市の歴史や文化を生かした中心市街地のまちあるき観光を促進しました。	観光文化スポーツ部
	9 佐竹史料館の整備を中心とした千秋公園の再整備を促進します。	○佐竹史料館の建て替えに向け、基本設計・実施設計を行ったほか、展示品や収蔵品の搬出および既存建物の解体工事、埋蔵文化財発掘調査等を行いました。 ○大手門の堀遊歩道詳細設計等および鐘楼更新設計等を行いました。 ○市民交流ゾーン園路整備およびさくら景観整備等を行いました。	観光文化スポーツ部 建設部
	10 スーパーシティによる若者にとって魅力あるまちづくりを実現します。	○市議会やまちづくり懇話会、パブリックコメントなどの意見を踏まえ、外旭川地区まちづくり基本構想を策定しました。	企画財政部 デジタル化推進本部 その他関連部局
	11 AIやICTを活用し、環境、防災のまちづくりを実現します。	○市議会やまちづくり懇話会、パブリックコメントなどの意見を踏まえ、外旭川地区まちづくり基本構想を策定しました。	企画財政部 総務部 デジタル化推進本部 環境部
	12 現代の流通・ニーズに対応した卸売市場の再整備を進めます。	○卸売市場再整備に精通したコンサルタントに業務を委託し、本市場の現状と課題や長期的なあり方、再整備の方法などを整理・検討し、再整備基本構想を策定しました。	産業振興部
	13 県や民間との共同による新スタジアムの整備を推進します。	○市議会やまちづくり懇話会、パブリックコメントなどの意見を踏まえ、外旭川地区まちづくり基本構想を策定しました。	企画財政部 観光文化スポーツ部
	14 泉外旭川駅開業により、公共交通網を充実させます。	○外旭川駅前広場へ路線バスを乗り入れするため、経路となる県道と接続する交差点改良工事を実施しました。 ○将来にわたり持続可能な公共交通ネットワークの実現を図るため、市内の大学等と連携し、公共交通に関する調査・研究を行いました。また、公共交通網の再編を進めるため、ビッグデータ等の分析による現況路線網の評価などを行ったほか、小型車両による面的交通の導入に向けた実証事業を実施しました。	都市整備部
	15 都市計画道路泉外旭川線、大浜上新城線の整備を促進します。	○泉外旭川線については、支障物移転補償や土地賃貸借を行った上で、工事を進めました。 ○大浜上新城線については、事業実施主体である県に対し、早期完成に向けた要望活動を行いました。	建設部

10項目			
	47プラン	取組状況	関係部局
3 デジタル化の推進			
16	押印の廃止とデジタル化を強力に進め、市役所に行かなくても全ての手続きができる「デジタル市役所」を実現します。	○取扱件数が1,000件以上の行政手続について、令和4年度内に118件をオンライン化しました。このほか、市税等の口座振替の申込みや保育所入所に係る各種申請、粗大ごみ収集申込み、消防法に基づく申請など、その他の手続についてもオンライン化を進めました。 ○市税等の納付について、コンビニ納付の仕組みを活用した納付情報スキャン方式によるクレジットカード納付を導入しました。 ○オープンデータの活用について、データ要望者、データを保有する所管課および有識者による意見交換会を行い、市議会の議決結果および常任委員会資料をオープンデータとして公開しました。 ○子育て情報の発信等を行う秋田市公式LINEの利用を開始しました。 ○全庁共通の定型業務にRPAを導入し、「財務会計システム支出命令伝票作成業務」等を自動化しました。	デジタル化推進本部 総務部 企画財政部
17	市民を待たせない総合窓口支援システムを導入します。	○総合窓口支援システムの運用により、受付時間や住民登録の処理時間の短縮を図りました。	市民生活部
4 さらなる産業の振興と雇用の創出			
18	仁井田浄水場整備は地元で優先して発注し、建設業の振興と雇用を守ります。	○市内企業4社以上の参加要件とした仁井田浄水場等整備事業の公告に対し、市内企業5社を含む9社で構成されたコンソーシアムと契約を締結しました。	上下水道局
19	テレワーク、ワーケーションなどによりさらなる企業誘致を促進します。	○トップセールスなどにより、誘致企業の本社・親会社への働きかけや成長が見込まれるICT関連等の新規開拓を県とともに進め、本市独自の優遇制度や立地環境の優位性等のPRに努めたほか、本市でのサテライトオフィス体験などを活用した企業誘致活動を積極的に展開しました。 ○地方進出ニーズ調査等において、「本市への新規立地の可能性がある」と回答した企業に対し、オンライン等によるテレワーク従事者の移住促進事業や、県のリモート拠点整備等の支援制度を活用しながら、県と連携した誘致活動を行いました。 ○令和4年度に創設した新規立地企業オフィス確保支援事業により、民間事業者のレンタルオフィス等の入居費を支援するなど、IT関連企業等の立地促進を図りました。 ○企業誘致プロモーション事業により、ニーズ調査や視察ツアーを行ったほか、ポータルサイトや動画作成、マッチングイベントへの参加等により誘致活動に取り組みました。 ○内閣府地方創生テレワーク推進モデル事業を通じて、首都圏企業のサテライトオフィス進出に取り組みました。	産業振興部

10項目			
	47プラン	取組状況	関係部局
	20 正社員化や雇用拡大により若者の地元定着を促進します。	○アンダー４０正社員化促進事業について、制度の積極的なＰＲを通じたさらなる利用促進に努め、安定した雇用の拡大を図りました。 ○若者の就職促進と地元定着を図るため、フレッシュマンの集いや若手社員向けコミュニケーション研修を開催しました。また、新卒者地元就職促進事業による企業研究会や高校教諭等の職場見学会開催、市内企業の採用情報等を掲載した就活ガイドブック作成のほか、中小企業採用・人材育成支援事業により、企業の採用活動やインターンシップおよび人材育成等を支援しました。 ○本市独自の優遇制度や立地環境の優位性等のＰＲに努めたほか、県と連携し、新規企業の誘致と既存企業の事業拡大を促進し、若者の雇用拡大を図りました。 ○本市創業支援事業計画に基づき、秋田商工会議所をはじめとする創業支援事業者と連携・情報共有し、起業の支援と雇用の創出を行ったほか、創業支援補助金制度や融資あっせんによる資金支援を行いました。	産業振興部
	21 農業の複合経営をさらにおし進め、圃場整備とスマート農業を推進します。	○下新城笠岡西部地区など16地区のほ場整備等を実施した「県営土地改良施設等整備事業」について、費用の一部を負担しました。 ○スマート技術等を活用した農作業の省力化、低コスト化に必要な機械等の導入を支援しました。 ○園芸振興センターにおいて、ＡＩやＩＣＴを活用した自動かん水施肥システムの実証展示を行ったほか、いちごのＪＧＡＰ認証を更新しました。 ○スマート農業の導入事例や実証結果に関する研修会を開催したほか、関係機関と意見交換を行いました。 ○農業法人等の園芸用ハウスや園芸用機械の導入を支援しました。 ○新規就農研修、冬期農業研修等の担い手育成に係る支援を実施しました。 ○ＪＡが行う農産物の安全性検査や、ダリアの需要拡大に必要な経費を支援しました。	産業振興部
	22 河辺地域における県産ウイスキー蒸留所、酒工房整備を支援します。	○都市農村交流のさらなる促進やウイスキー・日本酒の製造に関連した民間事業者の動きがある河辺岩見三内地区におけるエリア別整備の検討を行うことを目的に、有識者等で構成する「秋田市都市農村交流促進会議」を設立し、会議を３回実施しました。	産業振興部 市民生活部 その他関連部局
	23 雄和地域における農業、芸術、教育機関などの地域資源を連携させた地域の活性化を促進します。	○雄和地域の住民等で構成される「雄和地域活性化検討会」を立ち上げ、地域の現状や課題等を把握・共有するとともに、令和５年度の事業等について検討を行いました。	市民生活部 産業振興部 観光文化スポーツ部

10項目			
	47プラン	取組状況	関係部局
5 子どもを生み育てやすい環境づくり			
	24 子ども医療費と放課後児童クラブへの助成を拡充します。	○令和5年8月から子ども福祉医療制度を拡充するため、令和5年度予算に拡充分の給付費等を計上したほか、システム改修等の準備作業に着手しました。 ○国の補助基準額の改定に合わせて放課後児童クラブへの助成を拡充しました。 ○施設整備を行う法人に対し、整備費の補助を行いました。	子ども未来部
	25 妊婦へのインフルエンザ予防接種費用を助成するとともに、不妊治療支援を大幅に拡充します。	○特定不妊治療について、国の助成制度の廃止を受け、令和4年4月1日からの保険適用後の治療費の自己負担分について、市単独事業として助成を行いました。また、保険適用への円滑な移行に向けた支援として、令和4年3月31日以前に治療を開始し、令和4年4月1日以降に治療が終了した特定不妊治療について、自己負担分の一部を助成しました。 ○保険診療との併用が認められた先進医療等への助成について、令和5年度からの実施に向けた準備を行いました。	保健所 子ども未来部
	26 第一子からの保育料無償化を継続します。	○第1子保育料無償化事業を継続実施しました。 ※令和4年度は1,276人に対し、274,001千円の保育料を助成しました。	子ども未来部
	27 広面児童館の改築や四ツ小屋、寺内児童センターの大規模改修など、放課後の児童の安全な居場所づくりを計画的に進めます。	○東児童センターと外旭川児童センターの屋根および外壁の大規模改修を実施しました。	子ども未来部
6 高齢者などが活躍できる全ての人にやさしいまちの実現			
	28 エイジフレンドリーシティ（高齢者にやさしい都市）の取り組みをさらに推進します。	○エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会および市内推進会議に諮りながら、第3次行動計画の推進に努めました。 ○エイジフレンドリーシティの認知向上を目的に、8月24日をエイジフレンドリーシティの日とし、記念講演会、記念講座、記念イベント、パートナースタンプラリー、エイジいきいきポイント、出張講座・出張ブース等のプロモーション事業や、ワークショップ、パートナー研修会を実施しました。 ○総務省デジタル活用支援推進事業を活用し、高齢者を対象としたスマホ教室の開催により情報通信技術を活用する能力格差の是正を図りました。	福祉保健部 デジタル化推進本部 その他関連部局

10項目			
	47プラン	取組状況	関係部局
29	介護予防事業の拡充と地域包括支援センターの体制強化、見守り活動を充実します。	○介護予防事業の拡充については、生活支援コーディネーターや協議体による、住民を対象としたワークショップを開催したほか、要支援者等が参加する通いの場を通年で募集し、要件を満たす団体に補助を行いました。 ○医療専門職の職能団体の協力により、介護予防に効果的な体操等のプログラムを作成し、その指導を行う介護や医療の専門職を派遣しました。 ○地域包括支援センターの体制強化については、ケアプランの作成および評価時にリハビリ専門職と連携した同行訪問や助言等の支援を実施し、専門職の意見を取り入れる機会を増やすことにより、ケアマネジメント力を高めました。 ○介護予防ケアプランについての詳細なデータ分析を専門機関に依頼し、本人の状況等に応じたケアプラン作成について研修会を行う等、スキルアップを図りました。 ○見守り活動の充実については、新たな事業者と見守り協定を締結し、これまでの締結事業者とともに見守り活動を行うことにより、日常生活における活動の強化を図りました。 ○認知症サポーター養成講座や認知症関連研修を実施したほか、警察および地域包括支援センターとの協力による認知症高齢者の事前登録についても、登録者の増加に努めるとともに、情報共有を図るなど、関係機関との連携による地域の見守り体制づくりを進めました。	福祉保健部
30	障がい者の雇用拡大と芸術・文化・スポーツ活動を積極的に支援します。	○初級障がい者スポーツ指導員養成講習会の受講者に対し、助成を行いました。 ○障がい児者スポーツセミナー（パラスポーツフェスタ）を開催しました。 ○市内の中・高等学校および特別支援学校の文化活動を対象とする助成を行いました。 ○市内企業に対し、障がい者雇用の法定雇用率達成の周知を行ったほか、障がい者雇用拡大支援事業を新設し、障がい者が働きやすい職場環境の整備に係る費用を補助しました。 ○就労移行支援等の事業所の開設について関連法人に働きかけ、就労移行支援事業所（2事業所）が新たに開設されました。 ○障がい者アート活動の支援については、空の森研究所（金足）において10月8日から10日まで作品展プレイベントを、文化創造館において10月27日から31日まで作品展を開催しました。また、情報発信のためのウェブサイトの更新を行いました。 ○障がい児者を対象に全7回の水泳教室を開催しました。	福祉保健部 産業振興部 観光文化スポーツ部
31	LGBTQ（性的マイノリティ）のパートナーシップ制度を導入します。	○性の多様性について理解を深めるため、LGBTQに関して積極的な活動をしている企業や当事者からの講話、参加者同士の交流を図る「にじいろあきたワークショップ」を開催しました。 ○パートナーシップ宣誓制度のさらなる充実と効果的な啓発について、学識経験者などとの意見交換を行う「にじいろあきた懇話会」を開催しました。	市民生活部

10項目			
	47プラン	取組状況	関係部局
7 芸術文化・スポーツ・観光によるまちづくり			
32	芸術・文化・歴史などの地域資源を活かした住民参加による「文化創造プロジェクト」を推進します。	○フォローアップ事業である「PARKーいきるとつくるのにわ」を通して、県内外の多彩なクリエイターや地域で活動する研究者、実践者、秋田で暮らす人々が交わり、ともに学び、共創するプロジェクトを展開しました。 ○今後のプロジェクト推進に向け、外部有識者と意見交換等を行う文化創造プロジェクト推進会議を4回開催しました。	企画財政部
33	地元トップスポーツクラブを支援するとともに、さらなる応援機運の醸成を図ります。	○トップスポーツクラブ（秋田ノーザンハピネッツ、ブラウブリッツ秋田、秋田ノーザンブレッツ）へのスポンサー補助を行いました。 ○トップスポーツクラブのホームゲームのPR（バナーの掲出等）を行いました。 ○日本陸上競技選手権大会・混成競技の開催補助を行いました。	観光文化スポーツ部
34	クルーズ船誘致等によりインバウンド誘客を促進します。	○クルーズ船寄港による本市への観光誘客を図るために誘致活動を行ったほか、クルーズ船の寄港時には歓迎セレモニーなどを実施しました。	観光文化スポーツ部
35	秋田城跡等の整備により、歴史を活かした都市の魅力を向上させます。	○史跡等保存整備事業については、史跡公園連絡橋の供用開始に合わせて整備を進めてきた、AR（拡張現実）・VR（仮想現実）により政庁域等を再現するアプリを公開しました。 ○羽州街道歴史観光推進事業については、令和4年10月2日に「羽州街道歴史まつり」を開催し、街道沿線の文化施設や文化財を会場に、街道ウォーキングや芸術公演のほか、文化施設の無料公開を実施しました。 ○旧松倉家住宅については、令和4年12月21日に修復整備工事が完了し、指定管理者である（株）秋田東北ダイケンが管理運営に必要な開館準備業務を行い、令和5年3月21日にオープンしました。	観光文化スポーツ部
8 地球温暖化対策の推進			
36	秋田沖洋上風力の実現により、環境産業を創出します。	○促進区域指定に向けた「秋田県男鹿市、潟上市及び秋田市沖における協議会」に参画しました。 ○データセンター事業者の誘致に取り組むため、県との協議により候補地2か所（七曲臨空港工業団地および下新城地区工業団地整備予定地）を選定し、経産省補助金を活用したデータセンター事業実施可能性調査を行い、候補地のインフラ整備等環境調査やデータセンター事業者へのヒアリング等を行いました。 ○本県・本市の沖合や港湾等で洋上風力発電事業が進展している中で、関連産業の新規立地や市内企業の参入が期待されており、誘致活動やビジネスマッチングの機会創出などに鋭意取り組む必要があることから、商工業振興条例に基づく優遇措置の対象拡大を図ったほか、新たな組織の設置を検討し、関連産業の人材育成支援事業などの新規立案を行いました。	環境部 産業振興部
37	水素エネルギー活用など再生可能エネルギー拡大と民間企業の省エネ設備導入に対する支援等によりゼロカーボンを推進します。	○水素コンソーシアム等の講演会等に参加し、国の実証事業等の情報収集を行いました。 ○民間企業の省エネ設備導入に対する支援として、中小企業等省エネ促進事業を継続して実施しました。	環境部

10項目			
	47プラン	取組状況	関係部局
9 安全・安心なまちづくり			
38	バスとタクシーを組み合わせた持続可能で快適な公共交通を実現します。	○将来にわたり持続可能な公共交通ネットワークの実現を図るため、市内の大学等と連携し、公共交通に関する調査・研究を行いました。また、公共交通網の再編を進めるため、ビッグデータ等の分析による現況路線網の評価などを行ったほか、小型車両による面的交通の導入に向けた実証事業を実施しました。 ○中心市街地循環バスぐるるおよび秋田市マイタウン・バス（予約制を除く）にGPS端末を設置し、リアルタイムの位置情報をオープンデータとして公開しました。 ○公共交通の利用が不便な地域の高齢者や、運転免許証を持たない人のため、タクシー事業者およびスーパーマーケット等と連携し、高齢者等の日常生活に必要な移動手段を確保することを目的とした「買物タクシー」の本格運行を新藤田地区（手形字中台を含む）で開始するとともに、檜山地区（太田町、石塚町、大元町）において実証運行を実施しました。	都市整備部
39	交通系ＩＣカードを導入し、公共交通の利便性を向上します。	○交通系ＩＣカード「ＡｋｉＣＡ」の運用に関し、秋田中央交通(株)へ運用経費の一部を補助しました。また、マイタウン・バスでの運用に係る経費を負担しました。	都市整備部
40	古川の治水対策を促進するとともに、秋田地区河川防災ステーション（仮称）を整備します。	○古川排水機場について、雄物川の護岸および高水敷整備とともに用地取得を行ったほか、連絡道路の橋梁整備に着手しました。 ○（仮称）秋田市水防センターおよび周辺敷地の利活用について検討しました。 ○古川雨水排水ポンプ場について、詳細設計と地質調査および事業用地取得を行いました。	建設部 総務部 上下水道局
41	都市計画道路川尻広面線（横町工区）の整備を促進します。	○都市計画道路川尻広面線の整備に向け、費用便益調査を実施しました。	建設部
42	市立秋田総合病院を改築し、より安全・安心で良質な医療を提供します。	○令和４年７月末に改築を完了した、法人の新病院建設工事の施工に当たり、設立団体として必要な支援を行いました。	福祉保健部

10項目			
	47プラン	取組状況	関係部局
10 市民協働と教育の充実			
43	「秋田市のブランド化（シティプロモーション）」を推進し、交流人口・関係人口の増加を促進します。	○東京駅八重洲口、ＪＲ秋田駅ぽぽろ一どおよび秋田空港において、移住促進をＰＲする掲示物を設置し、本市への移住に関心を持つ方の増加と本市ブランド力の向上を図りました。 ○市内に選定している３箇所のモデル地区において、地区住民と大学生などによるフィールドワークを実施し、河辺式田地区・雄和新波地区では各地域の魅力や独自の決まりごとをまとめた「暮らしの手引き」を作成しました。中心市街地では、まちの素敵な居場所作りについて考えるワークショップを行い、出された意見をもとに、「透明ドームテント」を活用したイベントを２回開催しました。	企画財政部
44	「まちへの市民の誇り（シビックプライド）」を醸成します。	○まちへの誇りと愛着醸成月間（７月12日から８月15日まで）を定め、本庁舎やぽぽろ一どにのぼり旗等を掲出し、周知を図りました。 ○市民、帰省客、観光客等が本市の魅力に触れて愛着を深める機会を提供するため、本市の公式Instagramに投稿された自然や風景等の地域資源を写した作品を展示する「Instagram写真展」を開催しました。 ○市民一人ひとりが自分の住むまちに誇りや愛着を感じ、自分がこのまちをより良くするために関わっているという「当事者意識」を育むことを目的に、本市と連携して様々な取組を推進する「まちへの誇りと愛着醸成パートナー企業」を募集しました。 ○本市のシティプロモーションにおけるブランドイメージである「ちょうどいいから、住みやすい」が連想できる、具体的な「ヒト・モノ・コト」を取り入れたメッセージを市内の中学生から募集し、同企業の審査により上位作品を選出しました。 ○石井露月顕彰全国俳句大会兼秋田市短詩型大会の全入賞作品の中から、「まちへの誇りと愛着醸成賞」として最優秀賞１点、優秀賞２点を選出し、本庁舎前およびミルハス館内に、最優秀賞作品の懸垂幕を掲出しました。	企画財政部
45	泉地区コミセンの大規模改修、上北手地区コミセンの改築など、地域の自治活動や防災の拠点となるコミュニティセンターの計画的な整備を進めます。	○上北手地区コミュニティセンター改築工事に着手しました。 ○泉地区コミュニティセンター大規模改修工事を完了しました。	市民生活部
46	小・中・高等学校について、全普通教室へエアコンを設置するとともに、１人１台のタブレット配付を行います。	○秋田商業高校の普通教室に、令和３年度から令和４年度にかけて空調を設置しました。	教育委員会
47	老朽化した日新小学校を地域景観に調和した木造により改築します。	○工事車両の通路・搬入路を確保するため、普通教室棟の一部とプールの解体工事、屋体棟建設予定地の造成工事を行いました。	教育委員会